

第7篇 資本の蓄積過程 第24章 いわゆる本源的蓄積

第6節 産業資本家の生成

395 頁（第6節） 1 行から

「産業資本家の生成は、借地農業者のそれのように、漸次的に進行したのではなかった」「多くの貧弱な同職組合親方と、さらに多くの独立手工業者が、あるいは賃金労働者さえも、小資本家となり、そして賃労働搾取の漸次的拡大とそれに対応する蓄積によって、資本家らしい資本家となったことは疑いない」

- ・借地農業者は徐々に発生したが、工場主、つまり工業資本家はそうではなかった。
- ・同職組合の親方や独立の手工業者、あるいは賃金労働者さえもが、小資本家となり、賃金労働者を搾取し蓄積を進め、資本家らしい資本家に成り上がった。

396 頁後 1 行から

- 「高利貸と商業によって形成された貨幣資本は、農村では～」
- ・中世にはすでに異なった二つの資本（中世を生き続けてきた）—高利貸し資本と商人資本とが、かなり発達し、貨幣資本も大量に（形成）あった。
 - ・だが、この貨幣は直ちに、有効に産業資本に転化できなかった。農村では封建制度により、都市部では同職組合制度によって阻まれていた。

397 頁 1 行から

「封建家臣団の解体とともに、農村民の収奪及び部分的放逐とともに、なくなった」「新たな工場手工業が輸出海港にあるいは、旧来の都市とその同職組合制度の統制の外にある田舎の諸地点に起こされた」

- ・封建制度を基盤・前提とするものの解体や農民による収奪により取り除かれ、商業・高利貸しにより形成された貨幣資本が産業資本に転化され、新しい工場手工業が輸出港や、これまでにない農村地方に生まれた。

397 頁後 3 行から 398 頁

- 「いまや本源的蓄積の種々の契機は多かれ少なかれ時間的順序をもって、ことにスペイン、ポルトガル、オランダ、フランス、イギリスの間に分配される」
- 「イギリスでは、それらが 17 世紀末には植民制度、国債制度、近代的租税制度及び保護貿易制度において、体系的に総括される」
- ・（時系列的）本源的蓄積過程における中心的役割は、スペイン、ポルトガル、オランダ、フランス、イギリスの順序で受け継がれる。

- ・17世紀には、本源的蓄積の諸要素、植民制度、国債制度、近代的租税制度、保護貿易制度が体系的に総合される。これらの方法は、植民制度のように暴力的に遂行されるが、どの方法も封建的な生産様式から資本主義的生産様式への転化を温室的に促進し、その期間を短縮するために国家権力を利用する。
- ・強力（ごうりき＝合力）は、新しい社会をはらむあらゆる古い社会の助産婦であり、それ自身一つの経済的な力である。

401 頁 8 行から

「植民制度は、商業と航海を温室的に育成した。独占会社は資本集積の強力なテコだった～」

- ・植民制度は商業と航海を温室的に育てた。東インド会社に代表される独占会社は資本集積の強力なテコとなった。
- ・植民地は、成長する工場制手工業に販売市場と蓄積を保証し、奪い取られた財宝は母国に流入して資本に転化される。
- ・今日では産業の制覇が商業の制覇を伴うが、本来の工場制手工業の時代においては、逆に産業上の優位を与えるのが商業の制覇。だからこそ当時は、植民制度が重要な役割を演じたことになる。

402 頁 6 行から 403 頁

「公信用制度、すなわち国債制度の起源を～」

- ・公信用制度、すなわち国債の制度は現代に通じるものがある。国家に対する債権者は貨幣と引き換えた公債証書を現金同様に譲渡できる。国債およびその発行は、証券投機と近代的な銀行資本の勃興させる契機となった。

405 頁 4 行から

「国債は年々の利子その他の支払いを支弁すべき国家収入を、支柱とするものであるから、近代的租税制度が国債制度の必然的補足物となった。～」

- ・近代的租税制度は国債制度の必然的な補足として発達した。国債は、国家収入を前提として、年々の利子その他の支払いを行った。国債は、いきおい利子払いのため結果として増税を必要とし、増税はまた新しい借り入れを導く。
- ・近代的財政は、生活必需品に対する重税をつうじ、賃労働者に影響を与え、農民、手工業者たちから収奪をする。

406 頁 4 行から

「保護制度は、製造業者を製造し、～」

- ・製造業者を製造し、労働者を収奪し、国民の生産手段と生活手段を資本化し、

古い生活様式から近代的生産様式への移行を暴力的に短縮するための人為的手段であった。この目的を達成するため、間接には保護関税により、直接には自国民を誅求（租税などを厳しく取り立てること）し、植民地の産業を暴力的に根こそぎにした。

・封建的生産様式を資本主義的生産様式へ転化させるため温室的に助長し、かつその移行を短縮するのに、いかに国家的な暴力が利用されたか。

本源的蓄積をもたらした地球規模の要素は、アメリカにおける金銀産地発見、インドでの征服と掠奪、アフリカ大陸の奴隷供給地化、ヨーロッパの商業戦争などがあり、歴史順でスペイン、ポルトガル、オランダ、フランス。

しかし、こうした機会に植民制度、国債制度、近代的租税制度、保護制度の政策を組織的・統合的に動員をしたのは 17 世紀末（1688 年、名誉革命）ブルジョア革命後のイギリス（覇権国家に）でした。

奴隷取引と掠奪に代表される植民地支配は、資本の蓄積、販路拡大、貿易（三角貿易）を発展させた。

国債＝公信用制度は、眠っていた資金を動員・活性化する一方、公債証書を現金同様に流通させることで資本を供給した。（戦費調達）

（中央銀行）イングランド銀行（1694 年創設）は、手形割引、担保貸付に加えて銀行券発行、貨幣鑄造の権限を持つことによって、本源的蓄積の最も強力なテコとして機能した。（金融と財政）

国債制度は、国家収入を確保する近代的租税制度を整備させます。この租税制度は、下層・中間層（農民、手工業者）の暴力的収奪に大きな役割を果たしました。

保護制度は、間接には保護関税により、直接には輸出奨励金によって、資本家を保護し商人の海外進出を助けました。

本源的蓄積は、以上のようなブルジョア革命後に成立した政権において、国家的な暴力を後ろ盾として生産手段と労働者を切り離し、資本主義社会へと進めました。資本は「頭から爪先まであらゆる毛穴から血と脂をたらしながらこの世に生まれ」たのです。

第 7 節 資本主義的蓄積の歴史的傾向

412 頁第 7 節 1 行から

「それが奴隷と農奴の賃金労働者への直接転化、～直接生産者の収奪、すなわち自己の労働に基づく私有の解体を意味するにほかならない」

・資本の本源的蓄積、すなわち資本の歴史的発生は、奴隷や農奴の賃金労働者への転化を、したがって直接生産者の収奪、すなわち自分の労働に基づく、私

有の解体を意味する。

413 頁 4 行から

「労働者の自己の生産手段にたいする私有は、小経営の基礎であり、小経営は社会的生産と労働者自身の自由な個性との発展のためには、一つの必要条件である」

- ・私的所有にもとづく小経営—もともと生産手段の所有者だった労働者が自分の生産手段から暴力的に分離される過程。
- ・小経営の生産様式の繁栄の前提は「労働者が彼自身の扱う労働諸条件の自由な所有者である場合」に限られ、「農民はその耕す耕地の、手工業者は彼が老練の腕（技・技能）を持って振るう用具の、自由な私有者である場合のみである。」
- ・封建的な生産様式の後退と独立自営農民、独立手工業者の誕生は、ひいては自由な個性と生産物の発揮と発展の営み。

413 頁後 8 行から 414 頁

「この生産様式は、土地と、その生産手段の分散を前提する。」

- ・この小経営の労働者は、個々別々に生産する様式。分散・分化している。協業や分業の生産体制を排除する。
- ・しかし、このような生産様式もある一定程度の高さにまで発展・到達すると、自身を破壊するための物質的手段を生み出す。社会の胎内で、この生産様式を桎梏（人の行動を厳しく制限して自由を束縛するもの）と感ずる力と熱情が動き出す。「個人的で分散的な生産手段の社会的に集積された生産手段への転化、多数な矮小所有者の、少数の大量所有への転化、従って、民衆の大群からの土地と生活手段と労働用具の収奪、この恐るべき苛酷な民衆収奪が、資本の前史をなすのである。」
- ・こうして新しく生まれた資本主義的生産様式が小経営を破壊し、踏みにじって成長する。資本主義的生産様式のもとで、身ぐるみはがされた労働者は工場に投げ込まれ、資本に命ぜられるままに服従させられる。「自己の労働によって得られた、個々独立の労働個人と、その労働諸条件との癒合に基づく私有は、他人の、しかし形式的には自由な労働の搾取に基づく、資本主義的私有によって駆逐される。」
- ・「この転形過程が（単に、旧の生産様式ではない）旧社会を深さ広さにおいて十分に分解してしまえば…“労働のさらにそれ以上の社会化”と、土地その他生産手段の、“社会的に利用される”、従って共同的な生産手段への、さらにそれ以上の転化」される。

・「いまや収奪されるべきものは、もはや自営的な労働者ではなく、多くの労働者を搾取しつつある資本家である。」414 頁後 3 行

415 頁 7 行

「資本独占は、それとともに、かつそれのもとで開花した生産様式の桎梏となる。生産手段の集中と労働の社会化とは、それらの資本主義的外被とは調和しえなくなる一転に到達する。外被は爆破される。資本主義的私有の最期を告げる鐘が鳴る。収奪者が収奪される。」

415 頁後 4 行

「資本主義的生産様式から生ずる資本主義的領有様式は、したがって資本主義私有は、自己の労働に基づく個別的な私有の第一の否定である。しかし、資本主義的生産は、一種の自然過程の必然をもって、それ自身の否定を産み出す。それは否定の否定である。」